

第11回全国和牛能力共進会第2区出品に向けた取り組み

紀北家畜保健衛生所
○山中克己 磯江美智子
黒田順史

【背景・目的】

9月に開催された全国和牛能力共進会（全共）の第2区へ本県から初出品した。全共の主催は（公社）全国和牛登録協会で、5年に1回の和牛の全国大会である。4年前、生産者や家畜保健衛生所（家保）には調教や運動など出品に関する知識と技術がほとんどない状態から取り組みを開始し出品に至った。家保が全共に関する取り組みへ全面的に関わる事例は全国的に珍しく、今後のために取り組みを紹介すると共に結果を分析した。

【取り組み】

○平成25年度

全国和牛能力共進会和歌山県出品推進協議会（協議会）が設立された。目的は全共にて優秀な成績を収めることであり、過去最大の畜産組織である。

○平成26年度

知識と技術向上の取り組みを開始した。例えば、先進地視察を行い、紀北和牛改良組合は紀北種牛共進会を初めて開催した。以降、紀北種牛共進会は年1回開催されている。

○平成27年度

候補牛である雌子牛の造成を行った。家保は母牛と精液の選定に関わり、人工授精や妊娠鑑定を実施し、出生調査と子牛登記等を実施した。このための交配計画の作成や育種価計算など、労力と時間が掛かった。そして、人工授精の結果、候補雌子牛を6頭確保した。

○平成28年度

生まれた候補雌子牛をバランス良く発育させる飼養管理や疾病予防のため、各農家の巡回指導を多数実施した。家保が巡回体測を行い、集合審査や調教等の講習会へ協力した。他にも、除角、鼻環装着、毛刈り補助、寄生虫検査、記録、審査等を実施した。

○平成29年度

6月に出品牛を決定し、予防注射証明書を発行した。この際、私の審査技術で県代表牛を選ぶことの責任の重さを感じた。また、8月の講習会は県外講師を招き非常に効果的な内容であった。そして、9月の出発直前に健康検査を実施した。

【結果・考察】

全共第2区の順位は33頭中25位と一定の成績を収めた。体測数値を事前と本番で比較したところ、体高、十字部高、胸深について、

本番の方が測定値が小さく、体測技術の改善が必要であることが分かった（表1）。また、栄養度において、本番では臀部と尾根部が9と評価され総合的には7となり過肥と判定され、正確に測定する必要があった（表1）。

次に審査結果の順位と体測数値等について分析したところ、体高が $+2\sigma$ 以上の牛は過大であり下位になる傾向が認められた（図1）。また、胸深率が50%以上の深みのある牛は上位になる傾向が認められた（図1）。そして、講評により資質や品位等の種牛性を重視して審査を実施したことが分かった。

【まとめ】

協議会の運営は事務局の（公社）畜産協会わかやまの努力により円滑であり、発育良好な牛を出品することができた。

取り組みにより地域のまとまりや活性化につながり、次回も参加したいという農家の声がある。

また、飼養管理や調教等のコツを学習し、本県の審査時の注意点と全共審査の傾向を把握することができた。

そして、家保は全共へ大きく関わるため、知識、技術、労力、指導力、責任等が求められた。

【今後の課題】

紀北種牛共進会のレベルアップ、技術継承のための指導者育成、審査技術の向上、協議会のさらなる発展などが挙げられる。そして、家保は人材育成、役割分担、従来の業務の効率化を図る必要がある。これらは本県の和牛改良推進につながることであり、今後の和牛振興に寄与することだと考えている。